



1 文中の(ア)~(ク)にあてはまる語句を答えよ。

古代を通じて貴族が政治の実権を握るうえで大きな条件の1つとなったのは、皇室と姻戚関係を結ぶことであった。そのような条件を最大限に利用して政権を握ったのが藤原氏であったといえる。〔ア〕のとき、藤原冬嗣が蔵人頭に任ぜられてから藤原北家興隆の基礎が定まり、その子良房は〔イ〕によって伴・橘両家を没落させ、文徳天皇の〔ウ〕として勢力を増大させた。さらに、良房は幼少の清和天皇の外祖父となり、臣下として最初の〔エ〕となった。また、良房の養子基経は宇多天皇の時、〔オ〕に任ぜられた。このような藤原氏の勢力の増大に対して、皇室の側からこれをおさえようとする努力がなされたが、969年の〔カ〕で源高明が失脚してからは、政権は藤原氏が独占することとなった。しかも、藤原〔キ〕以後は摂政・関白は常置の職となり、藤原氏の政治ともいえる摂関政治の時代を迎えた。摂関政治の最盛期は〔ク〕とその子の2代にわたる60年余りの間であった。

1

(ア)	
(イ)	
(ウ)	
(エ)	
(オ)	
(カ)	
(キ)	
(ク)	

2 次の文を読んで、あとの各問いに答えよ。

902年の班田を最後にして班田収授は行われなくなった。そこで、朝廷は国司の地方支配の権限を拡大し、口分田を担税能力がある^a有力農民に請け負わせることとした。やがて、これが長期化することから口分田は()と呼ばれ、有力農民は名主と呼ばれた。

一方、8世紀から9世紀に生まれた墾田地系荘園は没落し、^b寄進系荘園が生まれてきた。

11世紀、地方の有力者は()領主と呼ばれ、自分が開墾した土地を守るために、土地を中央の権力者荘園と称し、自らは下司や公文などの()となった。寄進をうけた荘園の領主は()と呼ばれ、この荘園がさらに上級の貴族などにかさねて寄進されると上級の領主は本家と呼ばれた。

2

(1)		
(2)		
(3)		

(1)文中の()~()にあてはまる語句を答えよ。

(2)下線部 a について、この農民は何と呼ばれたか、答えよ。

(3)下線部 b について、次の各問いに答えよ。

荘園に与えられた税金免除の特権を何と呼ぶか、答えよ。

不入の権を得た荘園では国司の使者の立ち入りが拒否された。この使者を何というか答えよ。